# 飼料用米の乾田直播栽培の普及推進

県南農林事務所経営・普及部門

石岡市（旧八郷地区）で、水稲を約 40ha 作付けしている経営体では、限られた労働力のため従来から育苗・代掻き・田植え作業の省力化が課題となっています。このため、当部門では平成 29 年から乾田直播栽培の導入支援を行っています。令和３年度は、飼料用米専用品種「北陸 193 号」の乾田直播に 4.7ha で取り組み、747kg/10a の多収を実現し、10a 当たり所得が 16 千円向上する結果となりました。

## 技術導入の経緯

春作業の省力化のため、平成24 ～ 29年に湛水直播に取り組みましたが、用水開始後の代掻き・播種作業が必要で移植栽培との作業分散ができないことや、年次により作柄が不安定であったため定着しませんでした。

このため当部門では、平成29年から乾田直播栽培の導入を推進しました。播種作業機は、平成18年度に大豆用に導入した不耕起播種機を有効活用しています。

写真１　不耕起播種機を使用した乾田直播作業

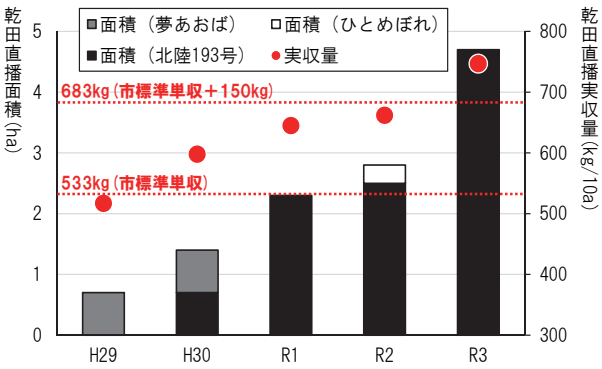



図１　乾田直播の栽培面積及び収量

## 作付面積・収量とも年々向上

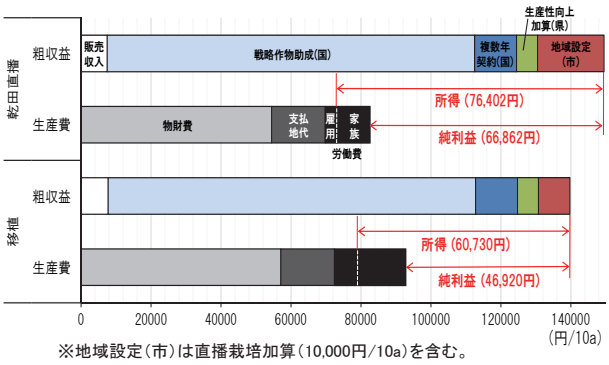
当部門では、①適正な播種深度の確保による苗立率の向上、②乾田期の除草作業を１回に削減することによる省力化、③ドローンを活用した追肥及びカメムシ類防除等を指導しました。

これらにより、乾田直播の作付面積、収量ともに年々向上し、令和３年度は4.7haで実収量747kg/10aの多収を実現しました。

## 作業分散と収益の向上を実現

低コスト技術である乾田直播栽培において、飼料用米の数量払額が満額水準となる多収を実現しました。このため、乾田直播の10a当たり所得は、移植栽培に比べ16千円高い76千円に向上しました。

本経営体は、乾田直播について、「育苗作業の省略」に加え、「移植栽培との作業分散が図れる」点も高く評価しています。




※地域設定（市）は直播栽培加算（10,000円/10a）を含む。

図２　乾田直播の収益性試算（令和３年度）